

特集

全日本18マラナ・タ フィールドスクール報告

全18
日本
ALL JAPAN 18
P111・B

講師のロン・クルーゼ先生



全日本18マラナ・タに備えて、参加を希望した14の教会や集会所に、モデル教会として2017年に10日間の連続講演会を経験していただきました。その経験から学んだことを、2018年の全日本18マラナ・タに生かすことが目的の1つです。モデル教会は、2017年3月から天沼教会を会場として行われたフィールドスクール（連続講演会準備のための実地訓練）のセミナーにインターネット中継を通して参加しました。その結果、モデル教会全体で215回の講演会が行われ、15名のバプテスマ、38名のバプテスマ決心者が与えられたほか、新しい聖書研究希望者も与えられました。

今回の特集では、フィールドスクールが実際に行われた天沼教会の経験を中心に、参加されたモデル教会の中のいくつかの教会のご意見を紹介します。

天沼教会

フィールドスクールに至るまで

2016年の新役員が選ばれた際に教会役員オリエンテーションを行い、教会の現状を共有するために、教会のさまざまな情報をまとめて発表しました。それは、天沼教会の近年の礼拝出席者数の推移や、約束献金の年代別内訳などで、データを見る限り、教会の将来について楽観視できない現状であるという認識を役員全体で共有しました。その結果、伝道について話し合う機会を多く持つようになりしました。2016年第3期の聖書研究ガイドは「地域社会における教会の役割」というテーマでの学びでした。私たちの教会でも、何かできるのではないかと、いろいろな可能性について話すようになり、昼食後に皆で残っていろいろな伝道について話し合いました。2016年10月の理事会で、2018年に行われる予定の全日本18マラナ・タに向けて準備するために、マラナ・タ委員会を発足することを承認し、さらに11月にフィールドスクールのモデル教会、メイン教会になることを承認しました。神様が伝道への思いを徐々に高めてくださったので、理事会でも大きな議論はなく、「ぜひ、やってみましょう！」という決断をすることができました。

2017年1月21日には、支部牧師会長のロン・クルーゼ先生によって、参加希望教会への説明会が天沼教会でありました。希望教会は12、13か所あり、この説明会は、インターネットでも中継されました。そのときはフィールドスクールへの理解が足りなかったため、教会がこれから何をしようとしているのか、全体像がまだよくわかりませんでした。さらに2月3日には、ロン・クルーゼ先生に特別に時間を取っていただき、天沼教会の理事との話し合いを持っていたいただきました。そのときも、フィールドスクールの全体像が、まだ見えませんでした。いったいクルーゼ先生は天沼教会で何をなさるのか、まだ十分に理解できませんでした。話し合いでは否定的な反論が多くありました。これだけの行事、プログラムをこなすことはとても大変でできない、私たちは忙しいし、そのような大きなことをやっても日本に合わないのではないか、という意見がほとんどでした。期待より不安が大きかったのです。しかし、参加すると決断してしまっただけだったので、不安を抱きながらも参加することになりました。

フィールドスクールの内容

3月10、11日に、いよいよ学びが始まり、**関係伝道と祈りの行進トレーニング**が行われました。教団総務局長の柴田俊生先生も来られ、2020年までの計画を説明してくださいました。また金曜日の夜と安息日学校の一部の時間で関係伝道についての講義を聞き、安息日の礼拝と午後のプログラムでは、祈りの行進について学びました。実際に午後にはトレーニングを受けた教会員たちが、近くの地域に出て行って、祈りの行進を実践しました。また、4月15日には、支部教育部長のリチャード・サブウィン先生の指導の下に、**長欠者回復セミナー**が行われました。4月16日から22日には、**リバイバルミーティング**が行われました。教会員がどのくらい参加されるか心配しましたが、日を重ねるごとに参加者も増え、約100名の参加者が霊的に燃やされる経験ができました。リバイバルミーティングの最後の日、22日には「**宣教する小グループ**」という**題で小グループ**について学びました。小グループの立ち上げ、運営までを学びましたが、学びの目的をまだ理解しきれていなかったため、実践にはつ

ながりませんでした。

6月2日に、**フィールドスクール特別祈禱会**が行われました。これはフィールドスクールのプログラムの中に企画されているものではなく、天沼教会員が自主的に行ったプログラムでした。なぜこのプログラムを行ったのかというと、教会の中でフィールドスクールに対して、不安が大きかったからです。積極的にフィールドスクールに参加して下さっている教会員の中から、教会全体が今何をしているのか全く理解ができず、とさまざま不安の声や意見をいただきました。このような流れから、翌日の6月3日には**フィールドスクール特別集会**を開き、さらなる説明を行い、参加を呼びかけました。全員参加とまではいきませんでした。集会の題や内容はとても良いものでした。小グループに分かれてディスカッションを行い、今教会に何ができるのか、今後私たちは何をしていくべきなのか、祈りと共に話し合うことができました、とても良い転機となりました。

7月28日から30日に**聖書研究の授け方**についての学びを行いました。が、予定していた講師が交通事故に遭われ、来ることができませんでした。教会の雰囲気も良くな

り、講演会に向けて結束しつつあったときにこのようなことが起きたので、サタン妨害があるということに気づき始め、霊的戦いの中にあることを意識し始めました。

8月27日から**40日間の早天祈禱会**を開きました。最初はできるだろうか、と心配していましたが、毎日6時半から7時まで早天祈禱会を行いました。平均12〜13名の方々が参加して下さり、最後の日には50名ほどの多くの方々が早天祈禱会に参加して下さり、フィールドスクールのために献身することを改めて祈ることができました。

9月15日には、**プレ講演会のためのスタッフトレーニング**が行われ、16日から20日まで、**プレ講演会**として、**キリスト教弁証学セミナー「Why God?」**が行われました。プレ講演会を準備する中で、会場選びにとっても苦労しました。東京都内で教会から近い会場がなかなか見つからなかったのですが、奇跡的に近いところが与えられ、神様を賛美しながら準備を行いました。また、プロのデザイナーが無料でポスターを作ってくださいました。出席者は常時150名前後でしたが、最後の日には179名が与えられ、教会員たちも、と

でも励まされた経験となりました。多くの方々が神様について興味を示されました。出席者は教会員が延べ218名で参加者人数のほとんどを占めていましたが、その他にポスターングで7名、新聞折込(3週間にわたって6万部配布)を見て4名が来られました。教会員のお誘いで来られた方が31名、その他、病院の職員、教会員の家族、インターネットを見て来た方などがおられました。教団メディアセンターの協力もいただき、充実したプログラムを持つことができました。

10月にはいよいよ**収穫講演会**が「The Story of Hope」という題で行われました。講師はフィールドスクールの講師ロン・クルーゼ先生が務められました。17日間24回の講演会でした。気が遠くなるような思いで始めましたが、実際にやってみて、やはり長かったです。しかし、最後には、もつとできたらよかった、またやりたい、という思いを皆が持ちました。講演会の内容は、聖書中心のアドベンチスト教理がメインでした。このような内容では、皆さん興味を持ってくれないのではないかと心配しましたが、予想に反し、求道者や

お客さんから「こういう話が聞きたかった」という声をたくさんいただきました。単なる教理的な講座ではなく、最後は必ず福音的メッセージで終わることによってさらに効果があったのではないかと思います。また、プログラム中心ではなく、求道者中心の講演会を学ぶことができました。細やかな求道者のケアについても学びました。バプテスマクラスは講演会開始一週間後から始めて毎日行い、14名が参加して、10名がバプテスマを受けました。バプテスマクラスを毎日行うことによって、参加しておられる求道者同士の絆が生まれ、迷っている方がおられると求道者同士で励まし合ってバプテスマの決心を促す、という不思議なことが起こっていました。

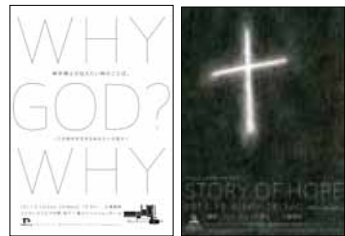
実践は最高の学校である、ということを教会員たちが実感することができました。参加者の毎日の推移は次ページの図をご参照ください。平日は少し落ちますが、安息日には一気に上がっています。平均141名がこの講演会に出席してください、そのうち求道者が17名でした。平日は106名、土曜日の夜は120名、安息日学校は119名、礼拝は263名、日曜日の夜は113名、平均的に出

席して下さいました。このことから、平日よりも週末に多くの人が来てくださる、ということがわかりました。

今回の講演会の特徴として挙げられるのが、求道者の細やかなケアです。双方向のコミュニケーションをとるような形を作りました。一番大きい役割を果たしたのが、出席カードです。来てくださった方には出席カードを書いていただきました。書く方はおられなかった方おられます。毎日出席カードを書いていただき、名前をいっていただくことで、どなたが来ているのか来て

<p>The Story of Hope 出席カード</p> <p>出席者とした方、講義後に講義で学ばれた方にはプレゼントがあります。</p> <p>名前 _____</p> <p>住所 _____</p> <p>TEL _____</p> <p>〒 _____</p> <p>のめり印として講義券をお取りになりますか</p> <p><input type="checkbox"/> ポスターを返す <input type="checkbox"/> アドベンチスト教員である</p> <p><input type="checkbox"/> 友人からの贈り物 <input type="checkbox"/> その他 _____</p>	<p>The Story of Hope ***コーナーの付録カード</p> <p>今後の講演会に対する感想等をお書きください</p> <p><input type="checkbox"/> 今回の講演は分かりやすく、収穫を受けました</p> <p><input type="checkbox"/> 今回の講演への感想は下記の通りです</p> <p><input type="checkbox"/> 今回の講演に感して質問があります (講義中に記入ください)</p> <p>名前 _____</p> <p>住所 _____</p> <p>TEL _____ E-mail _____</p>
<p>The Story of Hope パプテスマへの決心カード</p> <p><input type="checkbox"/> 聖書は信者に与えられた福音書である</p> <p><input type="checkbox"/> 私はバプテスマを信じ、福音書を受けたい</p> <p><input type="checkbox"/> 私はイエスの救いのすべてに賛成したい</p> <p><input type="checkbox"/> 私は聖徒の自由を望む者として決意を固めた</p> <p>名前 _____</p> <p>住所 _____</p> <p>TEL _____ E-mail _____</p>	

(上)出席カード
(中)フィードバックカード
(下)決心カード



(左)プレ講演会ポスター
(右)収穫講演会ポスター



(上)祈りの行進、(下)祈り

フィールドスクールの全体スケジュール

2016年	10月理事会	全日本18マラナ・タ委員会発足
	11月理事会	モデル教会承認
2017年	1月21日	参加希望教会への説明会
	2月3日	教会理事への説明会
	3月10日、11日	関係伝道と祈りの行進トレーニング
	4月15日	長欠者回復セミナー
	4月16日~22日	リバイバルミーティング
	4月22日	小グループセミナー「宣教する小グループ」
	6月2日	フィールドスクール特別祈禱会
	6月3日	フィールドスクール特別集会
	7月28~30日	聖書研究の授け方についての学び
	8月27日~10月5日	40日間の早天祈禱会
	9月15日	プレ講演会のためのスタッフトレーニング
	9月16日~20日	プレ講演会
		「Why God?」キリスト教弁証学セミナー
		@中野コングレススクエア
	10月6日~28日	収穫講演会「The Story of Hope」@天沼教会

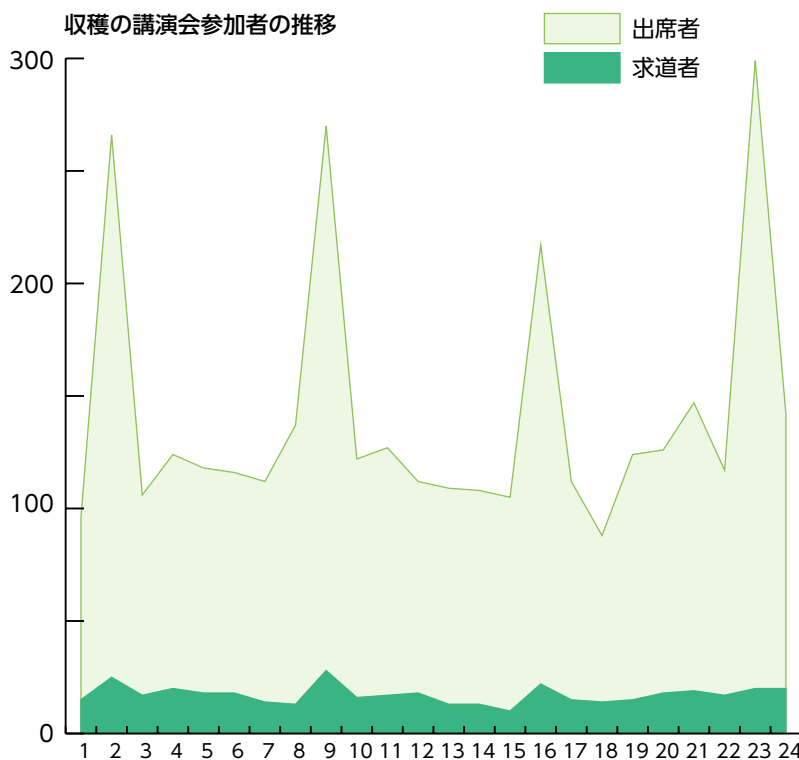
※フィールドスクールの内容は、教団ホームページの「全日本18」から動画で見ることができます。
※プレ講演会「Why God?」は後日ホープチャンネルにて公開予定です。

いないのか、その日にわかるシステムを作りました。また、毎日講演の最後にフィードバックカードを書いていただき、その方が今日の話についてどういう反応を示しておられるのかを毎日牧師がチェックするシステムを作りしました。また、求道者にバプテスマの意思表示ができるカードを配って、その気持ちに対して細やかにケアしていく、というシステムを作りま

した。結果として、10名のバプテスマ者が与えられ、教会員たちにとっても励まされました。

フィールドスクールを終えて

フィールドスクールに関して、教会員にアンケート調査をしたのでご紹介します。フィールドスクールを実施する前、あなたが認識していた教会の状況と問題点は何でしたか、という質問に対し、次



- ♥ 慣例的な礼拝、礼拝に出席して満足するだけだ。
- ♥ 教会の外への関心が薄かった。
- ♥ 教会内部の共感が薄かった。
- ♥ 聖書の勉強会が少なく、個人に任されている。
- ♥ 安息日礼拝の出席数が減少している。
- ♥ 高齢化。
- ♥ 行事としての伝道講演会が行われている。
- ♥ 救霊に対する関心が低い。
- ♥ 自分の経験に頼る傾向がある（聖書、神様のみ言葉に頼るのではなく、自分の経験に頼る）。
- ♥ 教会の連帯感がない。
- ♥ 教会員として与えられている役割についての意識が低い。
- ♥ 福音を伝えることに教会員が真剣に取り組んでいない。

- ♥ 一体感を持つことができた。
- ♥ 聖書の幅広い知識を得られ理解が深まった。
- ♥ 「マラナ・タダより」の発刊によって、臨場感のある情報共有ができた。
- ♥ 頭で考えるより、イエス様に信頼して行動することを体験できた。
- ♥ 青年たちの活躍が目立った。
- ♥ 教会にいらした求道者のことは必ず誰かが気にかけて、祈るようになった。
- ♥ 教会全体で講演会にかかわれるようになった。
- ♥ 気持ちだけでなく、具体的な時間と行動をもっと神様の奉仕に充てなくてはいいことを学んだ。
- ♥ 自分たちの能力の範囲内の計画ではいけないことを学んだ。
- ♥ 神様の力が加われば、何でもできるのだということを体験した。

フィールドスクールを通して、上記の思いがどのように変わったかという点に関する答えは、以下の通りでした。

- ♥ 聖書をより深く学びたい、もっと神様と交わりの時間を持ちたいと願うようになった。
- ♥ 周辺地域や教会に来られた方に関心を持って働きかけるようになった。

今後、教会が取り組むべき課題として以下の点が挙げられました。

- ♥ 私も含めてクリスチャンとしてふさわしい行動、証ができ、終末時代の残りの民として聖書のメッセージを、正しく伝えることができる信徒を目指す。
- ♥ 神様が進めるみ業であっても、私たち人もよくわかり合う必要がある。

- ♥ 全員参加伝道、教会員の一致が必要である。
- ♥ 会場係のような奉仕を教会全体に拡大する。
- ♥ マラナ・タチームが、今回のスクールで学んだことを、教会全体に伝えていく必要がある。
- ♥ 働き人が少ない。一部の方々に過剰な負担がかかってしまった。
- ♥ フィールドスクールに参加した他教会との連携があまり取れなかった。
- ♥ 求道者の確実なサポート、新しい信者の定着までのサポートをしっかりと実行する。
- ♥ もう少し時間をかけて理事会の意向を教会員に伝える。

保することが困難なこともわかりました。また私たちのマイノリティ意識が強く、それが先入観や偏見を生み出していたのではないかとも思いました。また、自分たちができること以上のことを期待して計画する必要がある、ということも学びました。

今後の課題

フィールドスクールの遺産を保存して発展させていく必要があります。私たちがフィールドスクールを通して学んだこと、改善すべきことをこれからも話し合っていていきたいと思えます。教会内のコミュニケーションを改善して

いきたいと思えます。教会がどういふものなのか、教会がどういふところであるべきか、ということについての理解を深めていきたいと思えます。また教会役員、および信徒の継続的教育も行っていきたいと思えます。30代40代の信徒のケアが特に必要であることを感じました。

まとめ

私たちに何ができるかできないかを考える前に、神様の命令に対して私たちが従う意思を持つということが伝道を行う上で大切だということも学びました。伝道は、私たち人間の業ではなく、神様が

なさるものだ、ということをしつかりと学ぶことができました。それ故に私たちは神様の方法に従って伝道する必要があります。私たちにできることをするのはなく、それを越えてやっていく必要があります。神様がそれを可能にしてください、ということ覚えていきたく思います。「あなたたちの神、主に信頼せよ。そうすればあなたたちは確かに生かされる。またその預言者に信頼せよ。そうすれば勝利を得ることができる」(歴代誌下20章20節)。このみ言葉のように、今後も神様を頼りにして献身していく教会になっていきたいと思えます。(天沼教会副牧師、羅明勲)

日本の文化と伝道に対する先入観も、ある程度打破することができたと思えます。日本ではできない、日本では合わない、という意見がたくさんありましたが、実際やってみたら、うまくいき、とても大きな成果でした。また、教会の強みと弱みを知ることができました。伝道を行事としてではなく、魂との関わりとして認識することができたと思えます。教会が外とのつながりが薄いと、求道者を確

沖縄国際教会

よかった点を教えてください

- ★過去に行った収穫の講演会よりも出席者が多かった。
- ★中心的な教会員は、10日間出席できた。
- ★来訪者は神の言葉に飢えており、講演に感銘を受けていた。
- ★日本人の来訪者が多かった。
- ★自宅でインターネット配信を視聴する人もいた。
- ★3名がバプテスマを受けた（うち2名は再バプテスマ）。
- ★2名の日本人が継続して預言について学ぶ決心をした。

反省点を教えてください

- ★連続ではなく途中で休日があれば、教会員、講師、通訳者が一息つけた。
- ★講演会は19時から20時30分までだったので、子ども向けプログラムはあったが翌日の学校に備えるため、出席できない人がいた。
- ★主にチラシによる宣伝は効果的ではなかった。
- ★最終日には、同時通訳のための受信機が足りなくなった。

これをやってあげればよかったと思う点を教えてください

- ★日本人来訪者は少ないと思っていた。
- ★もっと早く講演会の宣伝を始めればよかった。
- ★初日に機材の確認をしておけばよかった。
- ★講演会終了後、次につなげる具体的な活動を計画しておけばよかった。



中野コングレススクエアで行われたプレ講演会「Why God?」キリスト教弁証学セミナー

米子教会

よかった点を教えてください

- ★直前まで牧師の体調が悪かったが、無事終了できてよかった。フィリピンでの講演会の内容で、楽しんで学べた。
- ★内容は1日ごとに興味を引くタイトルで、パワーポイントを使って、わかりやすくてよかったと思う。
- ★時間も午後1時半からと、仕事をしていない私たちには出席しやすい時間帯だった。

反省点を教えてください

- ★英語から翻訳した内容だったが、日本語が難しかった。わかりやすい表現をしてもらった方が、初めての参加者には、わかりやすかったのではないかと思った。
- ★時間が長いと聞くのも疲れる。寝てしまうことがあった。他の方を見ていると、信徒は内容がわかっているからか寝ている人が多かった。一方で、初めて聞く人たちは、興味を持って聞いておられた。
- ★チラシのできあがりが遅かった。

これをやってあげればよかったと思う点を教えてください

- ★案内方法で葉書での郵送もあったらよかったかも。
- ★「講演会」という名目での教会へのお誘いは、ますますむずかしい。今回も長い間の交友から来てくださった方たちだった。すぐにバプテスマといかなくても教会に足を向けてもらうための取り組みが必要。
- ★インターネット配信など、長欠していて参加も難しい人にも見られる配慮が欲しかった。

フィールドスクール参加教会にお尋ねしました！

フィールドスクールのさまざまなセミナーに、インターネット中継を通して参加した(サテライト参加)いくつかの教会にアンケートを行いました。

千葉教会

よかった点を教えてください

- ①牧師も信徒も、アドベンチストの原点を再確認することができたこと。
- ②結果を恐れずにアドベンチストメッセージをストレートに伝える勇気を学んだ。
- ③プレ講演会では、毎日1時間祈る10人の祈りの戦士の志願者が与えられ、その結果として、5日間の講演会に平均7名の来会者が与えられた。
- ④サテライト参加であったにもかかわらず、教会員(平均22名) + 求道者 & 他のアドベンチスト教会員(平均3名)の出席者平均が25名(安息日の3回を含めて)与えられたこと。長い日数の講演会にもかかわらず、このように出席者が与えられたことは特筆すべきことだと思う。

反省点を教えてください

- ★サテライト参加の22日間の本講演会(天沼教会では24回)では、プレ講演会のとくのように、祈りが十分に深まらなかったように思われる。特別な祈りは、もっと期間を限定にして、アピールしたほうがよいと思った。

これをやってあげればよかったと思う点を教えてください

- ★千葉教会としては、このような長い期間の講演会は初めてだったので、これを挑戦できたことだけでも、及第点であると受け止めている。

千葉国際教会

よかった点を教えてください

- ★長期的な計画を立てて行う方法を学ぶことができました。
- ★プレ集会や教会イベントを通して求道者を確保することが可能でした。
- ★プログラムによって違う面もありましたが、プレ集会の実行と準備に、たくさんの教会員が協力し、隣人からの反応もよかったです(菜食料理講習会)。
- ★40日間の祈りを通して、祈りの力を感じました。(まずは、参加した教会員が恵まれました。また、祈りのリストの上に載せて祈った求道者が初めて教会に参加することもありました)

反省点を教えてください

- ★伝道講演会にサテライトで参加しましたが、時々プログラムの変更に対して、うまく対応ができなかったところもありました。

これをやってあげればよかったと思う点を教えてください

- ★元の計画が変更される場合、対応ができる時間やサポートをいただければよいと思います。
- ★伝道講演会が行われた期間中に、中間フィードバックや分かち合いがあるとよいと思います。

仙台教会

よかった点を教えてください

- ★連続講演会を自分たちの教会でもできることがわかったこと。
- ★(台風の渦中であっても)集まって来られる未信者が必ず数名おられることがわかったこと。
- ★教会員にとっては、アドベンチスト・メッセージへの理解を深める機会となったこと。

反省点を教えてください

- ★体系的・組織的な祈りが充分ではなかった。祈りの方法についてアピールが具体的ではなかった。
- ★テーマにダニエル書を選んだ。理由は、み言葉の力に信頼したかったから(教会員にはよかった)。しかし、靈的に準備が整っていない求道者にとっては、キリスト御自身に目を向けるためには内容が部分的に難解だった。

これをやってあげればよかったと思う点を教えてください

- ★来場なりそうな未信者を事前に訪問して事前の聖書研究や交わりの可能性を探るなど、積極的な伝道をすればよかった。それをするを教会員にアピールすればよかった。
- ★講演のメッセージ準備に、もっと早く取りかかればよかった。準備が遅れた結果、直前1か月(プレ講演会・プレ・コンサートと収穫の講演会との間の期間)は部屋に閉じこもることが多くなり、外に出る伝道に時間を割けなかった。

石川教会

よかった点を教えてください

- ★今回はGoogle Adwordsという媒体を通して、インターネットに広告を出しました。3名の方がこの広告を通して講演会に来ていただきました。
- ★やはり、聖書から真理を語ると、神様を求めている人は興味を持ってくださり、聖書研究につなげることができました。また、3週間に分けて(金・土・日、水)10日間の講演をしたことで、表面的なことだけでなく、少し深く聖書に入っていくことができたと思います。

反省点を教えてください

- ★フィリピンで行った講演会の説教内容は、日本文化に適用しない部分が多く、内容を大幅に変えなければなりませんでした。日本で10日間(あるいはそれ以上)の講演会をするのは十分メリットがあると思いますが、内容はその国、その地域のニーズと文化に合わせる事がとても重要だと感じました。

これをやってあげればよかったと思う点を教えてください

- ★チラシをポストに投函するだけでなく、できれば地域を戸別訪問し、講演会に個人的に誘えたらよかったです。

収穫の講演会に備えて聖書研究をしよう！

真理への道講座		全18課、A5判、各12頁(8頁+設問用紙4頁)	キリスト教の背景のない人々のためのキリスト教入門書講座です。聖書を手にとった方が最初に学ぶテキストとしてお勧めします。オリジナルは山形俊夫先生の著書。
アドベンチスト教理講座		全26課、A5判、各12頁(8頁+設問用紙4頁)、メールマン方式専用講座	聖書の教え、アドベンチストの教理を系統立てて学ぶことができます。小グループでの学びにも適しています。小島英伯牧師の書き下ろし。
基礎講座		全15課、A5判、各16頁、14課のみ20頁	実在したクリスチャンの体験が書かれていますので、福音を理屈としてではなくキリストとの関係に基づく生き方として学んでいただけます。山形謙二医師(神戸アドベンチスト病院名誉院長)の書き下ろし。
ストラクチャー預言講座		全24課、A5判、各16頁	米国AMAZING FACTSの講座を翻訳。よく知られている聖書の預言から、あまりなじみのない事がらまで深くひもとき、霊的な真理から、聖書が勧めるライフスタイルまで、わかりやすく学ぶことができます。